学びを深め，人や社会とつながる子の育成

～ 新聞活用を通して ～

村上市立小川小学校

1　学校の概要

本校は，村上市の中心市街地より北西に位置する，児童数 95 名の小規模校である。自然に恵まれた環境で，明るく温厚な子どもが多い。毎年 4 月には地域ボランティアとの情報交換会を設け，地域の方々の願いを伺ったり，地域の人材や教育資源の発掘に努めたりしている。今年度も，野菜作りや蚕の飼育，味噌作りや水稲栽培等，様々な教育活動に地域の方から参画していただいた。また逆に，学びの成果を地域の方に向けて発信したり，地域の行事に積極的に参加したりすることで，「地域とともに創り，地域とともにある学校」を目指している。

2　NIE 実践のねらい

文部科学省の調査によると，新聞をよく読む児童・生徒ほど全国学力・学習状況調査で正答率が高く，新聞閲読習慣と学力との間に相関関係があることが分かっている。

しかし，5 月の実態調査によると，本校では，新聞を定期購読していない家庭もあり，日ごろ新聞をほとんど読まない子どもが大多数を占めていた。また，自分から地域に働き掛けようとする意識もあまり高くなかった。さらに，過去 5 年間の全国学力・学習状況調査の結果を見ると，活用問題や記述問題を苦手としている子どもが多かった。

こうした学校課題を踏まえ，今年度より，『学びを深め，人や社会とつながる子の育成 』を研究主題に掲げて，NIE の実践・研究を進めている。

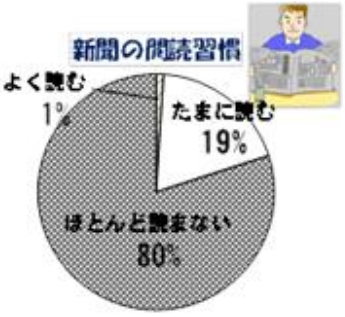

図 1 新聞閲読習慣の調査

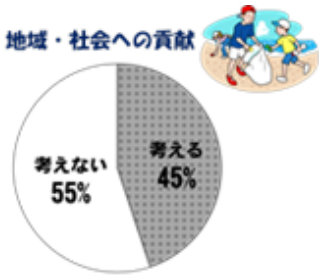

図 2 地域貢献の意識調査

この NIE の実践・研究を通して，次の 2 つのねらいに迫る。

（1）主体的・対話的で深い学びを実現させること

日々の授業で，主体的・対話的で深い学びを実現させるための手段として新聞の活用を位置付け，新聞の有効な活用法を探る。

（2）人や社会とつながろうとする意欲や態度を育むこと

前述の学校課題を踏まえ，新聞に親しむ環境を整えるとともに，様々な場面で新聞を活用し，人や社会とつながる子の育成を目指す。

3　実践の概要

図 3　FT による最初の NIE 研修（5/2）

まず，5 月に，ファシリテーションを用いて，学校に新聞を根付かせるための方策を話し合った。その中で，新聞閲覧コーナーや NIE タイムの設置のほか,「新聞の写真を見て俳句や詩を作るのはどうだろう」や「仕事や生き方について書かれた地元紙の記事ならキャリア教育に使えるのでは」等，授業で使えそうなアイディアがたくさん出された。

図 4 講師を招聘した NIE 研修（5/11）

次に，NIE アドバーザーの小池満喜子先生（神納小）を講師としてお招きし，前任校での NIE の取組を紹介していただいたり，職員の質問に答えていただいたりした。小池先生からは，授業のねらいに迫るための記事の集め方や，新聞のスクラップを中心とした NIE タイムの可能性，新聞を扱う上での留意点等，多くのご示唆をいただいた。

7 月から，新聞を活用した授業実践を行い，新聞の有効な活用法を探ってきた。今年度の新聞活用実践とその活用場面は，図 5 の通りである。

	場　面	活 用 例（実践学年）
A.事前活用	NIE タイム等で活用する	・授業に関する記事の収集（6 年） ・授業に関する記事の読み取り（2 年）
B.授業活用	課題設定場面で活用する	・学習課題に関する写真の提示（4 年） ・学習課題に関する記事の提示（2 年） ・問題を含む記事やグラフ等の提示（4，5 年）
	事実を知る資料として活用する	・カタカナ，漢字探し等（1，3 年） ・写真，地図，図表の活用（1，5 年）
	考えを深める教材として活用する	・書き方の参考文章として提示（6 年） ・課題解決の教材として活用＊実施予定 ・新聞記事の比較 ＊実施予定
C.事後活用	学習のまとめとして活用する	・終末での新聞づくり（3～6 年）
	発展として活用する	・作文や作品等の投稿（2，6 年）

図 5 新聞の活用場面と活用例

当校の NIE 実践のねらいに迫る上で，次の新聞活用法が有効であった。

A. 事前に，授業に関連する新聞記事を収集したり読み取ったりさせておく。
B. 課題設定場面で，問いや願いを生む新聞記事を選んで提示する。
C. 事後に，子どものふり返りや意見を地域や社会に向けて発信する。

4　実践例

（1）主体的・対話的で深い学びを実現させるために

子どもが主体的・対話的で深い学びを展開して授業のねらいに迫ることができるように，授業冒頭の課題設定場面で新聞記事を活用した。

① 驚きを生む新聞記事を提示することで，問いや見通しをもたせる

【 4年社会「健康なくらしとまちづくり」の実践 】

ふだんの生活において水をたくさん使っていることに気付かせ，自分や家庭の実態に合った節水方法を子どもに考えさせるため，授業の冒頭で震災時の水の配給を伝える新聞記事を活用して実践を行った。

単元の初めに，各家庭で1日に使っている水の量を調べさせた。すると，1家庭あたり約1000Lの水を使っていることが分かった（図6）。

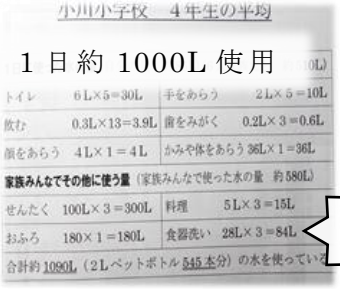

図6　水の使用量調べ

図7　2018年9月7日 読売新聞

そこで，本時では，震災時には1人あたり1日約40Lの水しか使えなかった」という新聞記事（図7）を提示した。

図8　問いや見通しをもった子ども

この働き掛けにより，子どもは，「1日約40Lの水でどう生活したらよいのだろうか」といった問いや，「使っている水をもっと節約できるのでは･･･」といった見通しをもつことができた。

図9　節水方法を意欲的に考える子ども

また，その後のグループ活動では，自分にもできる節水方法を考えて付箋に書き，意見交換を行った。その中で，「ああ，なるほど」「それ，いいね」等と呟きながら共有し合う姿が見られた。

授業冒頭で，子どもの驚きを生む事実として震災時の新聞記事を提示することで，子どもに問いや見通しをもたせることができた。今後も，学習指導要領の意図をよく理解した上で，ねらいに迫る新聞の活用法を考えていく。

② 出来事の推移が分かる新聞記事を提示することで，問いをもたせる

【 5年国語「説明のしかたの工夫を見つけ，話し合おう」の実践 】

子どもは，事前の説明文『天気を予想する』の学習で，文章に合った図表や写真等を用いると筆者の主張が分かりやすくなることを学んできた。

そこで，本時では，新聞記事にも事実を正しく伝えるために同様の工夫があることに気付かせ，記事を正確に読み取らせたいと考え，新聞を活用した。

図 10 学習課題設定場面の様子

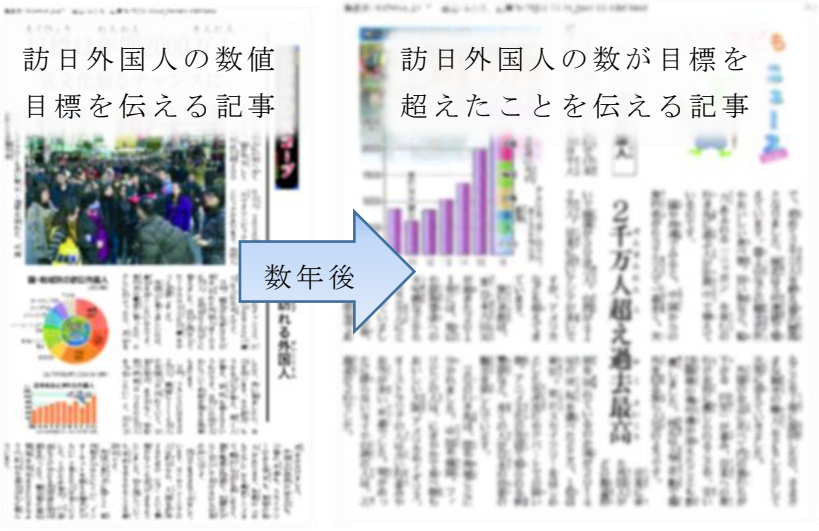

図 11　2014 年 3 月 18 日
新潟日報ふむふむ

図 12　2017 年 1 月 31 日
新潟日報ふむふむ

事前の NIE タイムで，「訪日外国人の数を目標は年間 2000 万人」と伝える 2014 年の新聞記事（図 11）の読み取りを行った。

本時では，「そのわずか数年後に目標の 2000 万人を超えたこと」を伝える新聞記事（図 12）を提示した。

図 13 記事から問いをもった子ども

この働き掛けにより，子どもは，訪日外国人の数がわずか数年で著しく増え，目標を達成した事実に驚き，「なぜ，わずか数年で目標を達成できたのか」という問いをもつことができた。

また，その後の自力解決では，訪日外国人の数が増えた理由を新聞記事から読み取り，意欲的に発言しようとする姿が見られた。

図 14 意欲的に自力解決を図る子ども

授業の中で，出来事の推移や今昔が分かる新聞記事を提示することで，子どもに問いをもたせ，課題解決に向けた意欲を育むことができた。今後も，日常的に新聞に関心をもち，使える記事を蓄積していく。

(2) 人や社会とつながろうとする意欲や態度を育むために

人や社会とつながる子の育成を目指し，新聞に親しむ環境を整えるとともに，様々な場面で積極的に新聞の活用を試みた。

① NIE の環境を整えることで，新聞に触れ，新聞に親しませる

ア　NIE タイムの実施

毎週月曜日の朝学習を NIE タイムとし，全校で新聞スクラップを行ってきた。最初は担任が事前に選んだ 1 枚の新聞記事についてコメントを書かせてきたが，最近では，記事を複数用意してその中から選ばせたり，教室に新聞を置きそこから自由に記事を選ばせたりできるようになってきた。

図 15　NIE タイムの様子

図 16　1 年生の新聞スクラップ

漢字探しや文作り，写真記事のスクラップ等を行った。

図 17　2 年生の新聞スクラップ

記事を改作したり読み聞かせたりして感想を書かせた。

図 18　3 年生の新聞スクラップ

記事に線を引きながら要約させ，感想を書かせた。

図 19　4 年生の新聞スクラップ

記事から刺激を受け，学習運動意欲が増した子もいた。

図 20　5 年生の新聞スクラップ

最近では，書く量が増え，内容も充実してきている。

図 21　6 年生の新聞スクラップ

記事を自由に選ばせ，コメントを交流させてきた。

イ　環境整備

今注目の記事を掲示したり，新聞閲覧コーナーを設置したりした。最近は，新聞を手に取る子どもや掲示板の前で足を止める来校者が増えている。

図 22　NIE コーナーの掲示板

図 23　新聞閲覧コーナー

② 新聞の事前活用と作文の発信で，学びに向かう力を高める

【2 年道徳「つよい心で ～松岡修造さんのお話を通して～」の実践】

自分の弱い心や様々な誘惑に負け，自分のやるべきことをしっかり行うことができていない姿が見られた。そこで，学期初めの 9 月に，教科書の教材『だいじょうぶ，キミならできる！』を用いて，自分のやるべきことをくじけず行おうとする道徳的心情の育成を目指し，実践を行った。

図 24　教科書（学校図書）P122

教科書の教材(図 24)には松岡修造さんのエピソードがえがかれている。しかし，2 年生にとって松岡修造さんはあまり馴染みがない。そこで，事前に関連する新聞記事（下図）をスクラップさせ，日本テニス界の状況や松岡修造さんに関する情報を把握させておくこととした。

図 25 スクラップ記事 1

2008 年 4 月 16 日 新潟日報

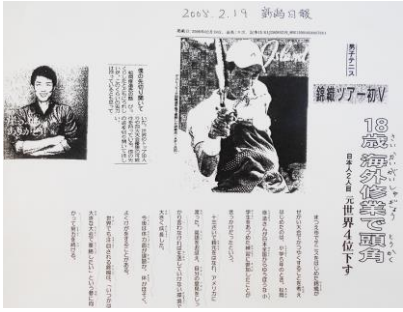

図 26 スクラップ記事 2（一部改作）

2008 年 2 月 19 日 新潟日報

図 27 スクラップ記事 3

2012 年 3 月 26 日 新潟日報

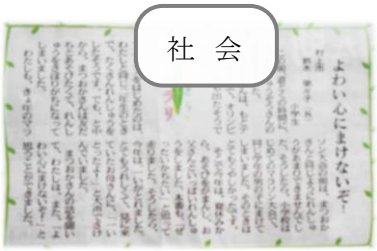

図 28 新聞に投稿した A 児の作文

事前に関連する新聞記事をスクラップさせ，教材に関する情報を補っておくことで，子どもは教材に興味関心を抱き，松岡修造さんのように弱い心に負けずに頑張ろうとする心情を深めることができた。

図 29 松岡修造さんへのメッセージ　図 30 松岡修造さんからのメッセージ

また，授業後には，子どもが書いた作文を松岡修造さんに送ったり，新聞に投稿したりして，人や社会との新たなつながりをもたせてきた。後日，松岡修造さんから直筆のメッセージが届き，A 児の作文が新聞に掲載された。すると，子どもは，さらに意欲的に様々な学習活動に臨むようになった。

新聞の事前活用と作文の発信を通して，学びに向かう力を高め，人や社会とのつながりをもたせることができた。

③ 新聞の切り抜きと意見文の発信で，情報活用力や記述力を高める

【6年国語「意見を聞き合って考えを深め，意見文を書こう」の実践】

本単元では，新聞を活用して，説得力のある意見文を書くことを目指した。

本時では，主張に対する根拠の重要性に気付かせ，未来がよりよくあるために自分が主張したいこととその根拠となる新聞記事を決定させることをねらいとした。

図 31 本時の授業の様子

図 32 NIE タイムで情報収集

本単元に入る前に，「未来がよりよくあるために」というテーマで意見文を書くことを伝え，NIE タイムを使って興味のある新聞記事をスクラップさせていった。この NIE タイムで，B 児は，「AI を使った自動運転タクシー」等の新聞記事に興味を抱き，情報を蓄えていった。

図 33 本時の対話場面

本時では，これまで集めた新聞記事が，どのテーマの根拠になるかを考え，皆で共有し合った。そして，自分が主張したいこととその根拠となる新聞記事を決めていった。

授業後には，新聞社の方から意見文を書くコツを教わった。また，自分が書いた意見文を新聞に投稿した子もいた。

図 35 新聞社の方から書き方を学ぶ

助言

図 34 B 児が選んだ新聞記事

収集

発信

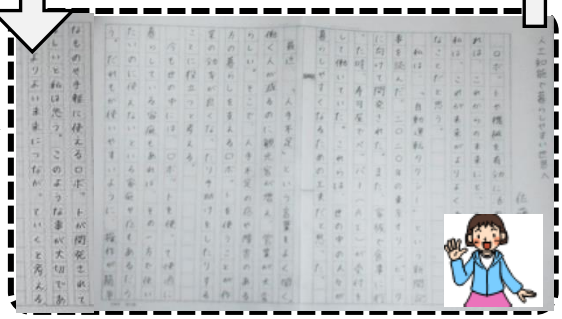

図 36 新聞に投稿した，B 児の意見文

図 36 は B 児の意見文である。B 児は，この単元の学習を終え，「前より作文がうまく書けるようになった」と述べていた。

本単元の学習を通して，情報活用力や記述力を高め，人や社会とのつながりをもたせることができた。

5　成果と課題

（1）成果

新聞の事前活用や課題設定場面での活用によって，子どもに問いや見通しをもたせ，主体的な学びを実現することができた。また，意見文を書く学習では，事前に新聞スクラップを行って書く材料を蓄えさせたことで，単元終末時には説得力のある意見文を書かせることができ，深い学びにつながった。

さらに，「新聞を有効に活用していくためには，新学習指導要領や教科書の意図をよく理解した上で具体的なねらいや働き掛けを構想していくことが大切である」と分かり，皆で共有することができた。

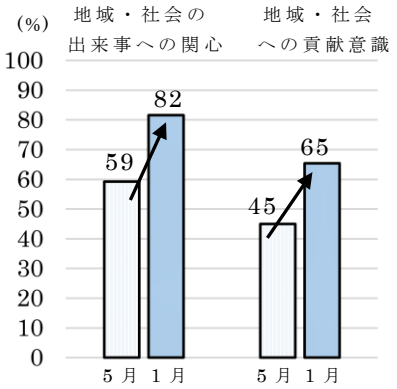

図 37　子どもの意識調査の結果（4年以上）

左図 37 は，子どもの意識（4 年以上）の推移を表したものである。前述の NIE の実践により，「地域・社会への関心」については，5 月 59%から 1 月 82%へと約 23%向上した。また，「地域・社会への貢献意識」についても，5 月 45%から 1 月 65%へと約 20%向上した。

さらに，右図 38 の 6 年生のように，以前より主体的に，地域の人や行事と関わろうとする姿も見られるようになった。

図 38　地域のお祭に参加する 6 年生

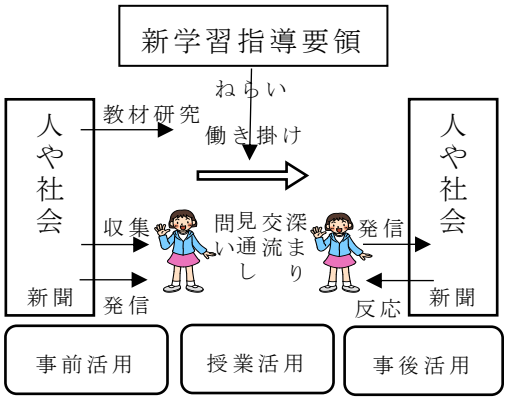

図 39　人や社会とつながる子のイメージ

この NIE の実践を通して，研究の方向性も見えてきた。左図 39 は，研究主題「学びを深め，人や社会とつながる子」のイメージである。これまでの実践から，「子どもは，人や社会とつながることで，新たに，知識や技能を獲得したり，思考力や表現力を高めたり，学びに向かう力を養ったりできる」ことも分かってきた。

（2）課題

右図 40 は，子どもの新聞閲読習慣に関わる実態調査の結果である。これによると，「日ごろ，子どもが新聞をほとんど読んでいない」と回答した保護者が，依然として 72%（前回 80%）も占めていた。この結果から，家庭を巻き込んだ NIE の必要性を強く感じた。今後は，家庭での新聞スクラップ等を推進していく。

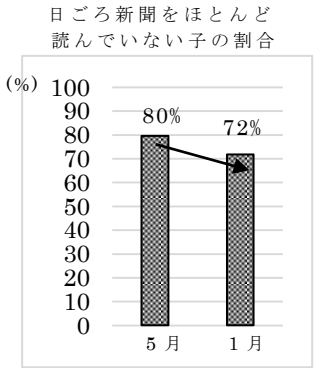

図 40　新聞閲読習慣の調査